

イチゴ高設床における培土の使用年数と収量						
<p>[要約] <u>長崎県型イチゴ高設栽培</u>で使用する<u>培土</u>は七作栽培した培土でも一作目に比べ極端に収量が低下することはない。また、交換性石灰及び交換性苦土、及び可給態リン酸の集積が見られるが、<u>生理障害</u>の発生は認められない。</p>						
総合農林試験場・野菜花き部・野菜科	専門	栽培	対象	果菜類	分類	指導
資料名：平成12年度 野菜試験成績書						

[背景・ねらい]

長崎県型イチゴ高設栽培では、システム設置後の培土の交換は困難であり、また、購入経費もかかることから数年連続して使用することとなる。そこで、培土の使用年数ごとの土壌分析と収量について調査し、培土の使用可能年数を明らかにするための資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 総収量は一作使用と比較して二作使用から七作使用についても同程度の収量がある。
また、年内収量においても極端な収量の差は見られない(図1)。
2. 培土の使用年数ごとの成分において、栽培年数を重ねるごとに、交換性石灰及び交換性苦土、及び可給態リン酸の集積が見られる(表1)。
3. 毎年イチゴの根が培土中に残るため全炭素量は次第に高くなり、CECも増加傾向にある(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 対象：長崎県型イチゴ高設栽培システム導入農家
2. ベンチ内の培土量が減少したときには新しい培土を補充する。
3. 栽培終了後は溜め流しを行い肥料の残留を防ぐようにし、定植前に土壌分析を実施し施肥設計を立てる。

[具体的データ]

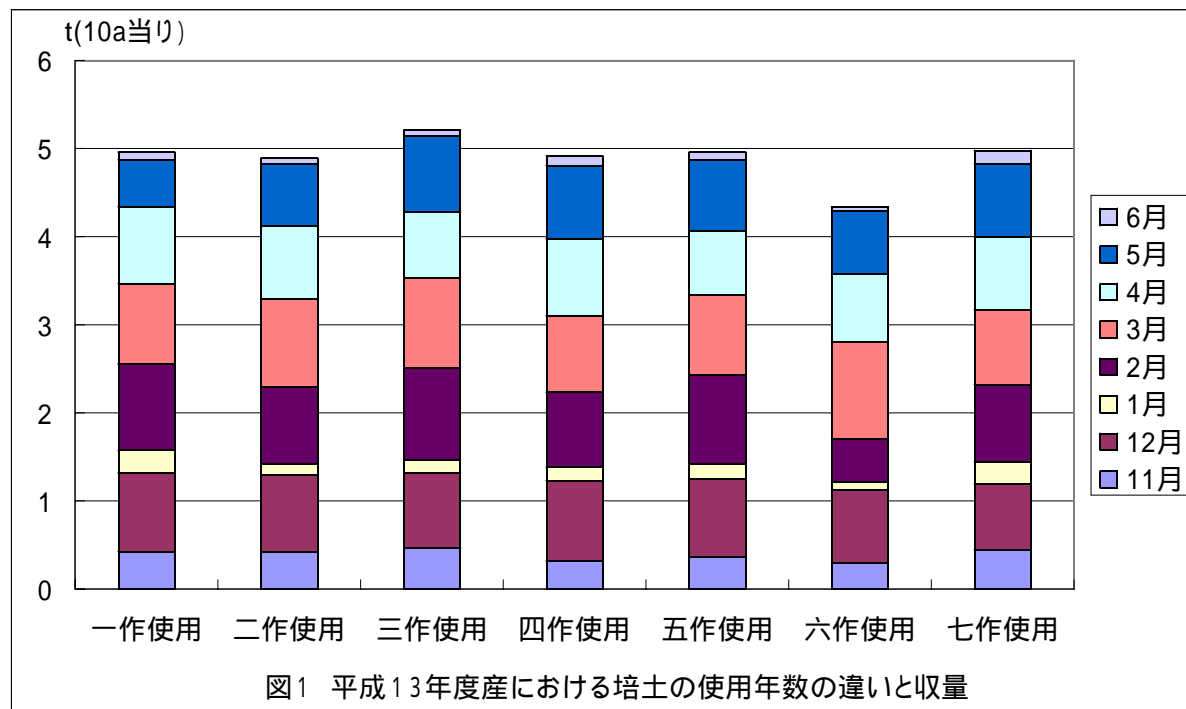


表1 平成13年度作植え付け前培土の使用年数ごとの成分比較

	pH	EC	T-N	T-C	CEC	交換性塩基			可給態リン酸
						CaO	MgO	K ₂ O	
						H ₂ O	ms/cm	%	
一作目	5.8	0.26	0.18	3.4	17.4	350	55	59	41
二作目	6.9	0.10	0.30	3.0	19.7	627	58	41	151
三作目	6.9	0.10	0.33	3.0	20.9	626	53	32	166
四作目	6.7	0.18	0.37	3.9	25.8	805	73	39	191
五作目	6.7	0.16	0.31	3.3	24.0	788	75	24	188
六作目	7.1	0.10	0.45	4.4	27.2	1015	83	78	244
七作目	6.9	0.14	0.36	3.8	28.8	834	94	32	164

【耕種概要】

- (1)規 模 1区10株 2反復
- (2)採土時期 H13年9月7日(溜め流し後)
- (3)栽植密度 株間20cm、1ベンチ2条植え(7200株/10a)
- (4)石灰使用量 50kg/10a(2年目以降土壌分析の結果により施用)
- (5)基 肥 N - 18.1kg、P₂O₅ - 15.6kg、K₂O - 14.1kg/10a
- (6)定 植 平成13年9月13日

使用年数	培土の配合種類と割合(容積比)
一作～五作使用	薩摩土65%、ピートモス15%、ヤシピート10%、バーク堆肥10%
六作～七作使用	薩摩土65%、ヤシピート25%、バーク堆肥10%

[その他]

- 研究課題名 : 施設野菜の新栽培法の確立と生産安定
- 予算区分 : 単
- 研究期間 : 平成13年(2000年～2004年)
- 研究担当者 : 藤田晃久・梁瀬十三夫・大井義弘